三原市歴史民俗資料館

蔵出しお宝ニュース

— 第 15 号 —

三　原　神　明　市　特　集　号

三原市歴史民俗資料館では，本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では，資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と，行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

初代大だるまの古写真 見つかる

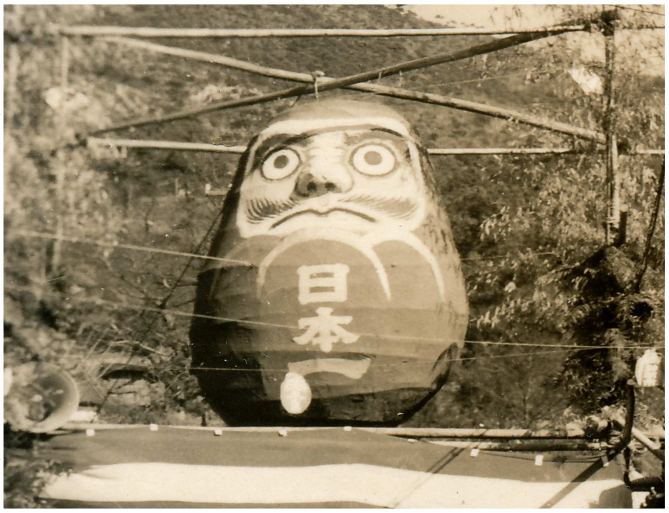
今年の神明市では，新たに４代目の大だるまが披露されるということで早くも話題になっておりますが，資料館では先日，初代大だるまと思われる古写真が見つかりました。初代大だるまの写真はこれまで公になったことがなく，４代目大だるまが鎮座する直前に発見されたのは奇跡的です。三原神明市協賛会の方にもご覧いただきましたところ，大変貴重な資料と評価してくださいました。大だるまは，昭和 25 年頃から東町四丁目町内会が神明市の期間中運営する“だるまくじ”の目印として飾られはじめられたもので，それが例年飾られ続けたことから神明市のシンボル化したものです。初期の頃は骨組みに和紙を貼って色を塗っただけなので，数年で痛んでしまっていたようです。目印の看板からシンボルへと変わってきたため，頑丈な仕立てのものになってきたのでしょう。

初代　大だるま
昭和 27（1952）年撮影

今回見つかった初代大だるまの古写真は，昭和 27（1952）年に撮影されたものです。現在の大だるまよりも幾分小ぶりな仕立てで，ピーナツ形をしています。注目すべきは，櫓の下の看板に“だるまくじ一枚五円”と書かれていることです。現在のだるまくじは１枚 100 円ですので，当時の物価を知ることができます。

神明市開催を前に，資料館２階ロビーに歴代大だるまの古写真を展示いたしました。２代目の大だるまはたまご形で，顔は初代の雰囲気を継承しています。３代目は昨年まで飾られていた大だるまです。

備後路に春を告げる大祭ですので，ぜひ皆様お運びください。



２代目　大だるま
昭和 28（1953）年撮影

３代目　大だるま
昭和 41（1966）年撮影

資料館マメ知識　「神明市」とは？

三原神明市は，備後路に春を告げる祭りとして 400 年以上の伝統を誇っています。青木充延著『三原志稿』によると，かつては正月 14 日に行なわれていましたが，現在は２月の第２日曜日を含む金・土・日曜日に行われています。一般には「しんめいさん」と呼びます。

神明市では，御神体となる「とんど」が巻かれます。とんどは「左義長」「おやま」「とんどやき」など，いろいろな名称で呼ばれますが，小正月に行なわれる火祭行事です。また，「神明」という言葉からして，伊勢神宮を祀る祭りを指します。よって三原の神明市は伊勢信仰と火祭りのとんどが一緒になった行事なのです。

神明市は，小早川隆景が三原城を築く以前から行なわれていましたが，永禄 10 年（1567）に三原城が築かれ，城下に商人が大勢住まいしたので盛況なものとなりました。隆景は瓶子１対を奉納しており，現在も大ダルマ下にある胡神社に残されています。隆景は祭りの賑わいを見て，年々の吉凶を占ったと言われています。

神明市には東町・館町・本町・城町一帯に 500 軒を越える店が出ます。だるま市・植木市・食べ物市などで，遊びに来た子どもたちは特に大喜びです。通りに面したところに祀られた胡神社を中心とした社では，土地の神職が詰めて参拝者の御祓いをし，本殿には古い神楽面を飾ったり，時代人形を飾ったりして目を楽しませてくれます。胡神社は商売の神様を祀っているので，現在でも神明市初日の早朝に，地区の氏子が社に集まり，神職が祝詞を捧げます。この神事を終えてから３日間の商売が始まるのです。

発行　平成 25 年（2013）２月６日
〒723-0015　三原市円一町２丁目 3－2
（三原市立中央図書館北隣）TEL 0848－62－5595
三原市歴史民俗資料館
※本冊子に掲載の写真などは，許可なく転用なさらないようにお願い申し上げます。